

人事・賃金制度改悪やめろ

乗務手当廃止が「頑張った社員を評価のため」なのか

JR東は4月から人事・賃金制度の抜本的な改悪を強行しようとしています。喜勢社長は「頑張った社員を評価する制度」「起業家精神」などを強調しています。しかし、会社自身が「昇給額が低くなり40歳代で現行賃金より低くなる」と認める大幅賃下げです。

乗務員を何だと思っているのか！

とりわけ乗務員にとっては乗務手当が廃止され、労働時間も延長されるといって、重大な賃下げ、労働条件改悪です。

乗務員は一人の労働者にかかる責任が最も重く、それゆえ長期の養成期間が必要で、ひとつ間違えば重大事故につながる

人事・賃金制度についての喜勢社長の発言

- 「大きな眼目」は、「頑張った社員を評価する制度にすること」
- 強く押し出した点は、「起業家精神を一人一人の社員が持つこと」

※交通新聞（25年8月7日）インタビューより

現実には乗務員への重大な賃下げ攻撃！

- 乗務手当を廃止し、月額2万円（乗務員）の業務手当に改悪
- 労働時間10分延長＝月あたり3時間以上の労働時間延長→残業代減

がりがかねない緊張が強いられ、事故や些細なミスまで処分の対象にされます。早朝・深夜にわたる不規則な勤務で、年々長時間化され、仮眠時間も十分に取れません。その中で、日々列車を運行し、安全を守っているのです。

乗務手当を廃止しながら、「頑張った社員を評価」という喜勢社長は本当にふざけています。乗務員をいったい何だと思っているのか。重大事故やトラブルをあれだけ引き起こしておきながら融合化・外注化を開き直り、現場に矛盾を押し付けるのか。本当に許せません。

職場から「反対」の声をあげよう

この攻撃は乗務員だけの問題ではありません。乗務員は鉄道業務の最も中心をなす職種で、その労働条件・権利のあり方はJR全体を規定してきたからです。そして、労働者側の抵抗する力が最も強かったのも乗務員だったからです。

すでに乗務員勤務制度の改悪、職名廃止、業務融合化等が進められてきました。さらに、基本給や定期昇給の廃止など、賃金制度を根本的に破壊しようとしています。私たちは乗務手当廃止、能力昇給・職務能力給化に反対します。